

二〇一九年、十月。消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられた。当時の私は、税に関する知識がなく、使い道を理解していなかっただけに、増税に対する不満があった。しかし、調べてみると、私たちが日常で税に支えられていることの数は、想像以上だった。

現在、中学三年生。私は、九年間の義務教育を終える。思えばこの九年間、何不自由なく当たり前で過ごしてきた。だが、その当たり前は税金によって形成されていた。公立中学校に通う生徒一人あたり、年間約百四万円もの税金によって賄われているのだ。日本国民の納税のおかげで、私たちの義務教育が成り立っていると知り、税金のありがたみを感じた。また、税金に対しての理解を深めたいと思うきっかけとなった。

近年、横浜で議論されているカジノ問題。道で目にするポスターには、カジノに対する反対意見が強く主張されていた。内容としては、治安悪化やギャンブル依存症の増加につながるというものだ。ただ、カジノ導入は悪いことばかりではない。現状、横浜は税収が不足している。例えば、小児医療の負担金に他地域と差が出たり、中学校の給食室設立が実現されないままなのだ。さらに今後は、介護費用も増えることが予想される。そのために、莫大な税収が見込まれるカジノを、有力な財源確保策の一つにしたいというのが推進派の意見である。横浜市民にとってとても身近な問題だ。なんとなく、カジノはよくないと思いついてきたけれど、税金の足りない厳しい現状を改善するには、カジノ導入という選択肢を選ばざるを得ない時が、近い将来来るのではないかと思った。

では、税金が不足するとどんな問題が起きるのだろうか。少子高齢化の進む日本では、労働者が減少し、当然今まで通りの所得税が得られなくなるだろう。従って、少ない労働者の税負担は大きくなり、子供を養うことすらままならなくなる。よって、少子化につながってしまうのではないか。こうした負の連鎖がこの先続かないようにするためにも、安定した税収を得ることが重要なのである。

税金は私たちの生活に欠かせない存在なのだ。医療費、学校、道路の整備、私たちの身近なあらゆるものが税金によって賄われている。そして、安心かつ安全に生活していけるのだ。税金の大切さを知った今の私なら、税金は払わなければいけないというよりも、払うべきだと思える。払ったからと言って、必ずしも自分にすぐ還元されるとは限らない。けれども、巡り巡っていつかは自分を助けることになるかもしれない。要するに、税金は人と人をつなぐバトンなのだ。義務教育というバトンを手放す今、新たにバトンを受け取る人のためにも、しっかりと税金を納めていこうと思う。